



ROTARY CLUB OF FUJIMI

富士見ロータリークラブ週報

第2257回例会 令和 5年12月 8日(金)

【卓話 長田 大介様】

2023-12-15発行

2023~2024年度



国際ロータリー会長ゴードン R. マッキナリー
「世界に希望を生み出そう」

【会 長】森田仁一

【副会長】栗原 平

【幹 事】萩原喜八郎

【S A A】涌井英樹

第2570地区ガバナー高丹秀篤
「希望を語ろう」

【点 鐘】会長 森田仁一会員

【斉 唱】ロータリーソング「我等の生業」

【ゲスト】埼玉縣信用金庫 鶴瀬支店

支店長 長田大介様

【会長の時間】会長 森田仁一会員

皆さんこんにちは、
以前に尾崎功会員が入院したと報告しましたが、先日、尾崎功さんから連絡あり一度10月23日に退院したらいいんですが、しかしまた頭が痛むという事で日高の病院に数日入院して、今は退院して自宅で療養していると本人から連絡頂きました、ロータリーの出席は暫く出来ませんが皆さんに宜しくと言ってましたので報告させて頂きます、早く良くなって元気な顔を見せて頂きたいと思っています。
今年の例会もあつという間に本日を含めあと2回となってしまいました、段々と年の瀬になって来て忙しい毎日をお過ごしかと思いますが、12月とは思えない季節外れの気候になっているので、寒暖差に気を付けて体調を崩さない様に気を付けましょう。先日6日の地区大会チャリティーゴルフが岡部チサンCCで盛大に行われました、絶好のゴルフ日和の中、暖かくて半袖でプレーしている方もいたようです、参加された方はお疲れ様でした、結果については来年3月の地区大会で発表されますので楽しみにして頂けたらと思います。
さて今月12月はロータリー月間テーマとして「疾病予防と治療月間」となっております。本日はロータリーの友12月号に掲載してあった第2650地区 福井フェニックスRC 脳神経科医 松原六郎さまの認知症についての記事が載っていました、読んだ方もいるかと思いますが、ちょっと気になったので少し話をさせていただきます、そのまま読ませて頂きますが、政府の発表によると、高齢化に伴って認知症の発症者も増える傾向にあり、2025年までに65歳以上で認知症の人は650万人を超え、約5人に1人が発症すると推計されています。



では年を取ると認知症になるのか？という、人の脳の正常な老化現象と認知症は似ていますが、これらは異なる現象です、ですから年を取ると認知症になるというのは間違いで、年を取ると認知症になる人が多くなるだけなのです。認知症の原因となり得る年代別のリスクという事で、45~64歳は聴力低下・脳への外傷・高血圧・アルコール多量摂取・肥満。
65歳以上になりますと、喫煙・うつ病・社会的孤独(家庭内孤立)・運動不足・糖尿病と書いてありましたが、意外にアルコールの多量摂取がアルコールの%が多いほど注意が必要なようです、アルコールだけではありませんが、認知症の原因は数限りなくあるようです、またロータリアンにお願いですという事で、「私もそろそろ認知来たかなあ」という何気ない言葉が、認知症と戦っているご本人やご家族の気持ちを逆なですることがあります、徘徊という言葉も同じです、この言葉は目的もなく歩き回ることを意味しますが、ご本人にはご本人なりのちゃんとした目的があります、ある事例として「子供が帰る前に家にいてやらなければ」と施設から出ようとした女性がいました、または生まれ育った家がなくなっていたとしても、子どもに迷惑をかけまいと必死になって自宅に帰ろうとしたり、以前にサツシの取り換えの仕事をしていた男性が病院の窓枠を外してしまったりと、認知症の方々は今も一生懸命生きようとされています、また家族もそうです、幼い頃にたくさんの愛情をくれたお父さんお母さんの、色々な事が出来なくなる姿を、子どもたちは認めたり受け入れたりすることが出来ません、だからついキツク当たってしまいます。
認知症のご本人と介護をするご家族への理解と支援はわれわれ市民にとって急務です、そしてそこにはロータリーの奉仕事業につながる沢山のヒントが埋もれているのです、また松原さんがこの中で、ロータリアンは「比較的認知症になりにくい」という現象です、あくまでも地域に暮らす一般の人達の傾向と比較して、ではあります、確かにそう感じています。やはりロータリーを通じた社会参加が関係しているのではと言っています。

私の私感ですが、確かに例会のある日には服装を整えて参加し、様々な活動について会員と意見を交わし、食事をしながら語り合い、時にはお酒を飲みながら親交を深める、心身共に健康でなければ出来ません！大袈裟かもしれませんが、私達ロータリークラブの活動によって、知らず知らずのうちに健康を保っている事が、比較的認知症になりにくいのではないのでしょうか？
それでは本日は、埼玉懸信用金庫・鶴瀬支店支店長 長田大介さまの卓話になっておりますので宜しくお願いします。有難うございました。

【幹事報告】幹事 萩原喜八郎会員

1)プログラムのお知らせ

1.当クラブの今後の例会プログラムは第9回理事会の報告の中で12月~2月までが掲載されておりますのでご参照ください。

2)次の書類を回覧します。

1.12月のレート \$1=¥147

2.国際ロータリー日本事務局より連絡事項「国際ロータリー理事会の決定事項」

「Rotary誌」ですが、これまでは半期 \$12でしたが \$18 となります。

3.第2回社会奉仕セミナー

日時:令和6年1月28日(日)

場所:国立女性教育会館 研修棟110研修室

4.ふるさと祭り礼状

5.第32回富士見市スポーツフェスティバル実行委員会より、協賛のお礼

6.第42回富士見市社会福祉大会における感謝状贈呈について

日時:2月23日(金)

会場:鶴瀬コミュニティセンター

【委員長報告】

○米山委員会⇒委員長 桑原福治会員

公益財団法人ロータリー米山記念奨学委員会より寄付者の方に米山功労者として表彰状が届いております。

斉藤重治会員

10回目のご寄付でルビー

のバッチと表彰状の贈呈



奥田功次会員

第6回目表彰状のx贈呈

尾崎功会員

第3回目表彰状の贈呈

桑原福治会員

第3回表彰状の贈呈

萩原喜八郎会員

第2回表彰状の贈呈



【出席報告】委員 秋元昌希会員

12月8日	正会員数	免除会員	出席率
会員数	27名	8名	
出席数	17名	5名	66.7%

【ニコニコBOX】委員 秋元昌希会員

本日出席会員より

埼玉 長田支店長 ようこそおいでくださいました。

奥田功次会員 (10,000円いただきました。)

長期欠席いたしました。

島田敏郎会員

前回欠席しました。

本日の合計22,000円

【紹介】浅見隆広会員

長根さんの代理でご紹介します。支店長はこのような場が不慣れと仰ってますが今日の卓話、期待します。

【卓 話】

埼玉縣信用金庫鶴瀬支店 支店長の長田と申します。このような場は不慣れであり非常に緊張しております。お聞き苦しい点あるかと存じますがご容赦願います。まず簡単に埼玉縣信用金庫の紹介をさせていただきます。



設立は1948年2月、本部は熊谷市にございます。毎年開催される東日本実業団駅伝の第3中継所が近く、年に一度は手前どもの本部がテレビに映りますので、よろしければ来年ご確認ください。

店舗数は埼玉県全域に96店舗、但し店舗内店舗を除いた実店舗数は本日現在77店舗、2023年3月末現在の預金は3兆1,500億円、貸出金は1兆8,400億円、常勤従業員数は約1,500名、預金量については全国254信金の中で5番目の規模であり、比較的規模の大きな信用金庫となっております。

続いて私の自己紹介をさせていただきます。昭和49年9月に埼玉県春日部市で生まれ、以後大学在学中の4年間以外は全て埼玉で暮らしている生粋の埼玉県民です。現在妻と高校生、中学生の子を持つ4人家族、趣味はスポーツ観戦、中でもプロ野球の千葉ロッテ、Jリーグの浦和レッズをこよなく愛しております。

現在当金庫で支店長の職を排してますが、現在に至るには様々な紆余曲折がございました。ちょっと長くなりますが、小学生のころからの職業観、憧れみたいなものをお話しさせていただきます。

ごく普通のサラリーマン家庭に生まれ、特段目立つことも無く、学校が終わると近所の公園や空き地で草野球に興じる極めて普通の小学生でした。そのころに憧れていた職業は、現在の職とは全く畑違いのプロレスラーでした。小学生の頃は空前のプロレスブームであり、アントニオ猪木率いる新日本プロレスが金曜日の午後8時、ジャイアント馬場率い

る全日本プロレスが土曜日の午後7時、加えて女子プロレスが火曜日の午後7時からと、インターネット等無きテレビ全盛期の時代にゴールデンタイムに3つの団体が放映されているという今では想像できないほどのブームでした。

幼いころでございますので、私は全てが完全な真剣勝負と思っていたので、時にテレビに向かい叫んでいたことも記憶しています。当然学校の友達も同じような状況であり、休み時間に4の字固めやコブラツイストをお互いに掛け合うなど、日常生活の一部に溶け込んでおり、毎週のテレビ放映を待ちわびると同時にその夢も日に日に膨らんでました。

中学校に入学してもピークほどでは無いものの、プロレス人気は続いておりました。私は小学校6年間続いていた野球ではなく、バスケットボールを部活として選びました。中学校入学当時は身長が137センチと小さく、プロレスラーになるためには体を大きくしないといけない、バスケット又はバレーボールをやると背が高くなるという全く根拠のない迷信を信じ、大好きだった野球と決別しました。

しかし、当然ですがバスケットをやるだけで背が伸びる訳はありません。成長期ですので普通に身長は伸びましたが、平均身長を上回ることはありません。毎日2リットル以上の牛乳、小魚をとり必死にあがいたものの、中学校3年生を迎えるころだったでしょうか、限界を感じ今の体格ではプロレスはできないと夢をあきらめました。但し、好きなプロレスに関わるため、すぐに次の目標を作りました。古館伊知郎になることです。レスラーとしてではなく、実況中継という形で関わろうとしたんです。あまりプロレスが好きでない方でも、古館伊知郎の実況は何かしらの形で耳にしたことはあるのではないのでしょうか。その時に親が買ってくれた「アナウンサーになるためには」という本を読み、その中で大学を卒業することがマスト条件であるということを知りました。

当時の私は学力が低く、所謂偏差値ですと50以下でした。大学に行くために、進学校と言われている高校に行きたいと強く決意し、中学校3年生の夏に部活を引退後、両親に志願し学習塾へ通わせてもらい、必死になって受験勉強に励み、県の東部では進学校と位置づけされている母校に合格しました。学習塾の塾長ですら信じられないと驚いていたことを記憶しています。

高校生活では陸上競技部に入部。大学に行くという目標のもと、部活、遊び、ほどほどの勉強を行い無事大学に合格しました。千葉県にある大学に進学し、ほどなく通学時間が非常にかかることから一人暮らしを始めました。全国津々浦々から集まってきた同窓生たちと仲良くなり、サークル活動ではスキーを行いました。しかし、大学で学びたいという思いで進学したのではなく、アナウンサーになるために進学をしたこと、一人暮らしで非常に自由な時間が多かったことも重なり、日に日に大学の講義もまともに受けなくなります。アルバイトも含め、仲間とは楽しい時間を過ごし、アナウンサーになりたいという漠然とした思いは持っていたものの、何となく生活しているという日々が続きあっという間に就職活動を意識しなければいけない時期が訪れました。

そこで初めて現実を知ります。公表こそされていないものの、NHKあるいは民放キー局といわれているテレビ局のアナウンサーの採用数は、書類選考も含めると数千人～数万人に一人と言われるほど狭き門であるということを知りました。決して評されるような学生生活を送っていなかった自分が採用されることは非現実的だと思い、漠然とした思いではあったものの、アナウンサーになるという夢はあきらめました。では、卒業してどうしようか？自分は一体何をしたいのであろうかと改めて冷静に考えてみました。生活をしていく以上当然就労しないとイケない、自分は何の仕事をするれば良いのだろうかと熟考した結果、一つのイメージが思い浮かびました。自分が好きなことではなく、公共性の高い仕事を行いたいと・・・そんなざっくりとしたイメージです。当時の今までの人生を振り返った時、自分自身への厳しさといまでしょうか、そのような点が足りないなと感じたこと、今まで世話になった両親を初めとした多くの方に迷惑をかけず、仕事を通じ自分を律することができる仕事、そんな環境に身を置こうと思いました。公共性というキーワードからは、まず最初に考えたのが公務員です。但し、現在ではそんなことはないのでしょうか、当時住民票を取得しに訪れた時、まさしくお役所仕事という感じに対応されたことを覚えており、公共性は高いものの何となく自分がイメージしている職場とは違うと思ってました。そして次に考えたのが金融機関です。命の次に大事なお金、人によっては命より大事なお金という方もいますが、民間企業でありながら人の財産を預かるという仕事は、公共性が高く且つサービス業としてお客様と対応することも必要です。学生ですから実際の内情は知りませんが、今でいうコンプライアンス意識が高くなければ務まらないという点も自分のイメージどおりではないかと感じ、金融機関で働こうと決めました。結果、氷河期と言われた時期の就職活動を通じ、縁あって現在の金庫に採用していただくことができました。

預金を預かる、時にお金を融資する。その程度の知識しかないまま入庫、短い研修を終え、県東部の支店に配属されました。私の入庫年度は平成9年、バブルは既に崩壊後、北海道拓殖銀行、山一証券の破綻等金融危機の第二フェーズといわれた時期であり、当金庫も含め不良債権処理が金融機関の命題とされている時期でした。

当時の私の支店でも所謂延滞債権が想像を絶する数で存在しており、入庫1年目の私は毎日出社 ⇒ 2階の会議室で延々と督促の電話を行うという日が続き、まさに当時の金融機関の現実に身を置くことになります。

そんな1年目を過ごし、2年目には涉外担当者となりました。全く何もわからず、いいから行ってこい、わからなければお客さんが教えてくれる、そんな時代でした。最初の数ヶ月は支店周辺の集金業務がメイン、その後地区を広げ製造業を主体とした企業の担当もしました。所詮2年目の若造なので細かいことは良くわかりませんでしたが、とにかく顔を出ししっかりと話せる関係を構築しようという思いはありました。

3年目には再び内勤となり、融資の窓口を担当することになりました。徐々にはありますが、仕事も覚え初め、来店される企業の社長とも普通に会話ができるようになり、何となくですが、仕事が楽しいと思える日々でした。

その年の秋、担当していた企業の社長から食事の誘いがありました。今までそのようなことも無く、通常のお客様とし

て接しておりましたが、上席の許可をもらい、社長、社長の奥様、私の3人でとんかつ屋に行きました。普通に飲み食いをし会話をしていたところ、突然社長が深刻な顔をします。「実は、体調が悪く、今の事業を1年後に廃業する。廃業後は知人の会社で雇ってもらうことになった」と告げられます。社長も奥さんも半分泣いているような状況で突然打ち明けられ、私も正直混乱しました。落ち着いて話を聞いたところ、本来ならもっと上席にしっかりと報告するべきと思ったが、まずは日々世話になってる「あんた」に報告したかったとおっしゃってくれたんです。衝撃的でした…3年目の若輩ものに2廻り以上年上の社長が泣きながら廃業の報告をしてくれている。現在入庫して26年が経ちましたが、この日の出来事がなければ今の私は存在していないと思います。先程何となく仕事が楽しいと思えると言いましたが、そんなことを思っていた自分が恥づかしいと感じたのでしょうか。難しい言い方ですが、仕事が楽しいと思うことそのものは良いが、お客様に対しての姿勢の真剣さが足りていなかったと感じたのです。嫌な事、辛いこと、多々あるものの、あの日の社長の涙姿を思い出すと、こんな事ぐらいで悩むなと自分を勇気づけております。現在、当金庫のCMで、「あのね」が言える距離にいる というキャッチフレーズがございますが、まさにあの日から今日まで、目指したものは、預金・貸出といった金融機能のみでなく、お客様に何でも相談してもらえる、そんな職員になるということです。今の私の体験談もそうですが、金融機関に勤めて良かったなと思うことは、若い内から様々な業種の様々な経営者の方と話ができること、取り分け信用金庫職員はその要素が強いと思います。業界に長くいると勘違いしてしまうのですが、新卒2年目の若手社員が企業の社長と普通に会話をする機会って中々ないと思うんですよね。この経営者の方々から更に学び、自分を成長させていく機会が信用金庫職員の最大のメリットであると思います。その後、営業店2店舗、本部3部署を経験した後、5年前に支店長の職を拝命しました。我々営業店は毎年年度初めに各支店の施策、方針、スローガンを掲げます。私が支店長として毎年掲げているテーマは「地域に愛され必要とされる金融機関になること」、「地域のハブの役割になること」この2点を最重視し、その上で、各種係数目標について触れております。信用金庫は営業エリアに制限がございます。お手元の冊子に当金庫の営業エリアが記載されております。一部隣接する都県も入っておりますが、あくまでも主体は埼玉県全域です。原則埼玉県でしか業務を行えないということは、裏を返せば埼玉県が元気でないと我々の業務は成り立たない、富士見市が元気でないと私の所属する鶴瀬支店は業務が成り立たないということです。そのためには、地域の個人のお客様、事業先のお客様、行政、商工団体等

と緊密な関係構築を行い、地域活性化に資する活動には積極的に関与をすることは不可欠であると思っております。金庫内の若い職員には更に簡単な言葉で説明してます。1日1回でいいから、「ありがとう」と言われよう！。この積み重ねがお客様、地域との信頼関係の構築に繋がるよと。長引くデフレ下で様々な局面で効率化、スリム化を図る傾向がございますが、信用金庫の原点である「Face to Face」は正に地域の皆様との関係構築の入口であると思えます。当金庫を初めとした信用金庫の職員は、人情味に溢れている人間が大半です。是非とも、金融機能、サービスのみでなく、昭和の香り漂う泥臭い活動を行っている信用金庫、角度を変えたそんな視点で一度ご覧いただきたいなと思います。地域の皆様の「あのね」が聞けるように、私たちは敷居を低くして皆様のご来店をお待ちしております。

さて、このままでは私の履歴書で終わってしまうので、業界の未来像を私見としてですが述べさせていただきます。一言で言うと「わからない」が答えです。昔、川口にある埼玉県産業技術総合センターの副所長のお話を伺う機会があり、その時された質問が「スマートフォンは10年後どこまで進化している？」というものでした。ある人は名刺サイズになっている、ある人はメガネ一体型になっているなどと回答してました。その後ある人が「わからない」と回答したところ、それが正解だと答えられました。最初の回答も不正解であるわけではないが、その分野での技術革新が早く、想像することなどできないというのが本来だと。

金融機関も正にそのような状況であり、キャッシュレス、デジタル化、AIといったキーワードを考えると、我々そのものがどのような存在であるべきかといった根源が変わってしまう可能性があるのではと考えております。将来は過去の延長ではなく何が正解か分からない時代が到来しております。その中で一つだけはっきり言えることは、金融機関の店舗としての役割は大きく変化する、端的に言えば金融機関の支店は大幅に減少するであろうということです。当金庫全体として、10年前に比べ来店されるお客様は約4割減少しております。金融機関店舗に対する「お金の接点」としての社会的ニーズは今後も一層低下し、事務の拠点から相談拠点へと変化をしていくであろうと感じてます。

地域の皆様の「あのね」を聞く拠点、それが金融機関の店舗になっていくかと存じます。 ご清聴ありがとうございます。

【点鐘】会長 森田仁一会員

例会日	毎週金曜日
時 間	12:30～13:30
事務所	〒354－0022 富士見市山室2－10－10 島田ビル201号
電 話	049－251－6596 FAX049－252－3848
例会場	島田ビル1F
Eメール	fujimi-rc@nifty.com

会報・IT委員会	週報担当:浅見隆広
委員長:浅見隆宏	副委員長:長根章浩
委員:西崎哲章 涌井英樹 秋元昌希 羽石貴裕 加治秀之	